



ふじがみしげお
藤上繁昌さん
(昭和7年生まれ・83歳)



ひらばら ゆかこ
平原由佳子さん
(香川県立丸亀高等学校2年)

コーディネーターより

炭焼き、製材、林業、しいたけ栽培など、13歳から山の仕事に携わってきた藤上繁昌さん。山での暮らしや、炭焼きをなぜやめたのか、製材業からしいたけ栽培に至るまでのお話を通して、木を伐り山の手入れをすることが、海を守ることにつながっていることを話してくれました。平原さんの「山の仕事を継ぐ人はいないのですか」という質問に、「いないよ。もう10年経ったら山は原始林みたいになる。水がなくなり、困るかもしれない。山が豊かだからこそ海に水が流れるんだよ」と藤上さん。帰宅途中、塩江の山で「水源かん養保安林」という看板を見つけました。インタビュー後にこの林を見たことは、平原さんが藤上さんの言葉の一つひとつを改めてかみしめることにつながったのではと思います。

10年後には山も
原始林みたいになるでしょう。

塩江の「山仕事」の達人 藤上繁昌さん(高松市)



藤上さんから受け取った言葉

いろいろな仕事をされていますが、一番大変だった仕事はなにかですか？
一番大変だった仕事は継ぐかたちで、13歳から炭焼きをはじめたでしょう。13歳から16歳ぐらいまでが大変だったね。何してもわからんし、炭をいろうても重たいし。誰も教えてくれる人がいなかったから、自分で父がしたことを思い出してやってた。18歳か20歳ぐらいまで学校も行かないで炭焼きをしていましたよ。
炭焼きからどうして製材業に変わっただんですか？

それはね、炭を焼く仕事がちよっと不便なかな。炭を焼くためには、まず木を伐らないかんでしょう。木は一度伐ると、成長するまでに少なくとも20年、30年かかる。だから、その間は山に炭を焼くための木がなくなるんです。これが

大人だったら、自分の山の木が成長するまでは他の人が持っている山の木を買って、炭焼きをするだけだね。当時の私は16歳か17歳。炭焼きする木がなくなってきたらわけてくれないか言うても、誰もわけてくれないし、そういう方法があることすら知らなかったわな。

その頃炭は何に使ってたんですか？
コタツとかね。今ほど電気とかガスが発達してなかったでしょう。だから炭を使うのが多かったんですよ。

藤上さんのお宅に来る間、紅葉がとっても綺麗でした。山にはどれぐらいの種類の木があるんですか？
300や400はあるでしょう。木材にできるのはヒノキとかスギとかマツとかですね。ほんでも今頃は木材が外材に押されて。外材のほうが安いから、国内の山の木をあまり伐らないんですよ。

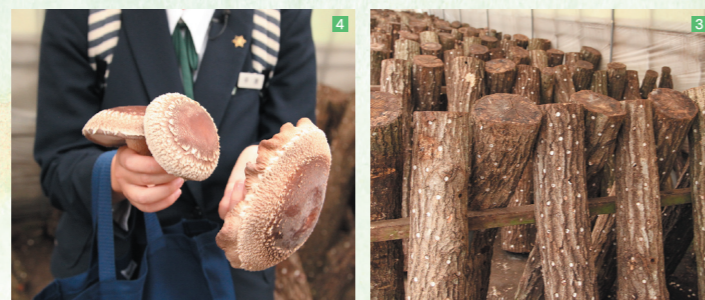
外材に押されて国産の木が売れないのは、山にとってはどうなんですか。木を伐ることで山は育つと聞いたことがあります。
伐るといふより、山に入って手入れをするということが大事なんです。でも、木を伐つてもお金にならないでしょう。だから山の手入れする人がいなくなっちゃったんですよ。山の中には荒れ放題な所もありますね。私もときどき自分の山を歩いて、伐つてのけたり、手入れをします。間引きちゅうんかな。混み合ってるもんを摘むんです。木がたくさんあると競りよる。それで木を抜いたり、枝打ちして間引くんです。日が当たるように



1 平原さん曰く「藤上さんは、83歳と思えないくらい元気で面白い方」。当日はTVの取材も行われた 2 塩江の山奥にある藤上さんのお宅。ここで暮らしながら、炭焼きをはじめ、木材の伐り出しなど、ずっと山仕事に携わってきた 3 藤上さんの今の仕事はしいたけ栽培。原木に穴を開けて手で植菌する 4 塩江は温度差が激しいので、おいしいしいたけができる 5 藤上さんのお宅に向かう途中に出会った風景 6 藤上さんの仕事場を見学



山の手入れができていけるうちは水もいい。



参加者の感想



お話を聞いて、時代の変化と共に山は変化していると感じました。電気が普及し、外材の輸入が増えている現在、山に関心を持つ人や山に入る人は減っています。山の手入れが行き届かなくなり山が荒れると、綺麗で豊かな水を私たちは使えなくなります。今も昔も、人は山無しでは生きていけないし、山も人無しでは生きていけません。藤上さんのように多くの人が山の偉大さに気づき、大切にしようと思心を持つことが、山を守ることに繋がると感じました。

藤上さんの山の仕事を継ぐ人は？
いないね。もう今から10年経てば山も原始林みたいになるでしょう。山が荒れて高松で生活しても水はなくなるし困るよ。今から山へ入るときなさいよ。やっぱり山が豊かだからこそ、海や池に水が流れて、綺麗な水ができる。山の手入れができていけるうちは水もいいですよ。山の手入れをちゃんとしていると山の栄養が川を下って、海もやっぱり豊かになる。そういったところを普段意識しながら、山の手入れをする。川へ廃木なんかも流さんようにせな、水が汚くなるわな。だからそういう気遣いをもって山の手入れはしなくちゃならない。

